

現状

重点事項

WG

- ・意思決定過程における低い女性割合(政治、行政、企業、科学技術・学術分野etc)
- ・依然として低いGEM(108か・国中58位)

- ・男性の短い家事・育児時間(週に30分)
- ・男性の孤立や日常生活自立の困難

- ・母の年齢別周産期死亡率は年齢に比例して増加傾向
- ・女性や若年層を中心とした非正規雇用者の急速な増加
- ・子どもの相対的貧困率の上昇
- ・母子世帯の7割が年間就労収入200万円以下
- ・深刻な女性に対する暴力
- ・配偶者による暴力被害者が抱える多様な困難
- ・セクハラ相談件数の増加

- ・根強い固定的役割分担意識
- 半数以上の男性が「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えに賛成。
- 20歳代女性が40、50歳代女性と比べて賛成と回答している割合が高くなっている。
- ・男性の長時間労働(30～40歳代男性の20%以上が週に60時間以上働いている。)
- ・共働き世帯は年々増加し、片働き世帯との差は広がっている。

- ・未批准の女子差別撤廃条約選択議定書

- ・地方公共団体等における男女共同参画に関する推進体制や連携・協働体制が十分でない。

女性の社会への
更なる参画

男女共同参画の
意義についての
男性の理解の深化

人間としての根本に
関わる課題の解決、
セーフティネットの
整備

意識改革やワーク・
ライフ・バランスの
推進などの環境整備

男女共同参画の視点
に立った社会システ
ムの構築や、政策の
立案・実施・評価

国際的な協調や
国内における
推進体制の強化

政策・方針決定過程への女性の参画の促進

様々な分野におけるポジティブ・アクションの推進、メンター育成支援、ネットワーク形成支援、社会的起業等多様な活動への評価・支援のあり方検討

女性のライフコースに沿ったエンパワーメント

キャリア形成支援、子どもの問題への対応、再チャレンジ支援、雇用における均等・均衡処遇の確保、高齢女性の活動促進

地域における男女共同参画の推進

女性による地域づくり、地域産業活性化、防災、環境等に関する取組、第2ステージの具体化

男性にとっての男女共同参画

戦略的広報・啓発、男性の孤立・日常生活自立支援、男性の参画が少ない分野への参画促進

生涯を通じた健康支援

ライフステージに応じた支援、相談体制整備、性差医療、適切な性教育、HIV等の教育啓発

生活困難を抱える人々への対応

自立力を高める取組、雇用・就業の安定、安心して親子が生活できる環境づくり、高齢者支援

女性に対する暴力の根絶と人権の尊重

被害者の保護・自立支援、市町村レベルの取組強化、若年層への予防啓発、バーチャルな分野における性暴力への対策、性犯罪被害者のプライバシー保護

風土の改革・気運の醸成、あらゆる年代層への広報・意識啓発と実践的取組

若い世代や男性への意識啓発、メディアとの効果的協働、子どもの頃からの意識の涵養

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現

仕事と生活の調和と能力発揮を実現する働き方全体の見直し、WLBの推進により女性の活躍を促進する効果的な取組の検討・普及

より多様な生き方を可能にする社会システムの実現

中立的な社会システム構築に向けた税制、社会保障制度等の検討、家族に関する制度の整備

監視・影響調査機能の強化

体系的・実質的な評価の仕組みづくり、苦情処理、ジェンダー予算適用に向けた課題

国際的協調・対外発信機能の強化

女子差別撤廃条約、平和構築・開発援助への貢献、国内外の連携強化

国と地方の推進体制の整備充実・地方公共団体、企業、大学、NPO、地縁団体、男女共同参画センター等との連携強化

情報提供、研修機会提供、人材育成プログラム開発、多様な主体のネットワーク化、情報共有・自主的な取組の推進

国と地方の推進体制の整備充実・地方公共団体、企業、大学、NPO、地縁団体、男女共同参画センター等との連携強化

女性の活躍
促進WG

地域WG

男性WG

健康WG

監視・影響調査
専門調査会(WG)

女性に対する
暴力に関する
専門調査会(WG)

仕事と生活の調和
(ワーク・ライフ・バ
ランス)に
関する専門調査会
(WG)

監視・影響調査
専門調査会(WG)

国際WG